家 計 調 査 報 告（家計収支編）
～ 平成19年平均速報結果の概況 ～

Ⅰ　家計収支の概要

〈総世帯の家計〉

⑴　消費支出は実質で1.2％の増加

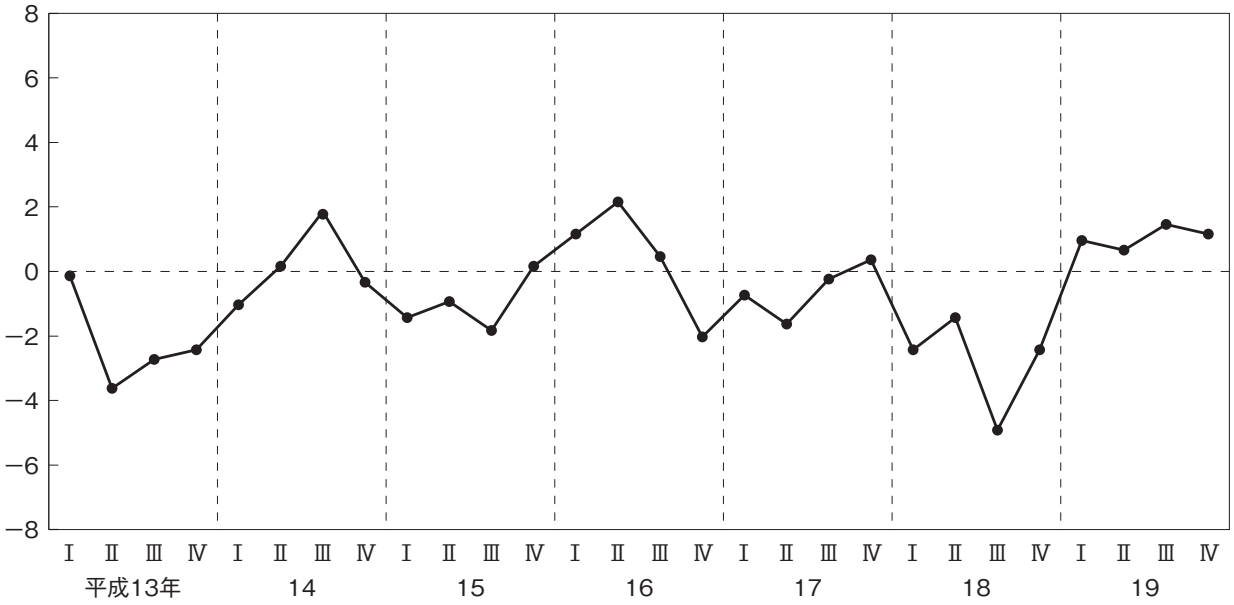
平成19年の総世帯（平均世帯人員2.54人，世帯主の平均年齢55.5歳）の消費支出は，１世帯当たり１か月平均261,526円で，前年に比べ名目1.3％の増加となった。また，物価変動を除いた実質では1.2％の増加となった。

総世帯のうち二人以上の世帯（平均世帯人員3.14人，世帯主の平均年齢55.7歳）の消費支出は，１世帯当たり１か月平均297,782円で，前年に比べ名目1.0％の増加，実質0.9％の増加となった。また，単身世帯（平均年齢55.0歳）の消費支出は，１世帯当たり１か月平均169,153円で，前年に比べ名目3.3％の増加，実質3.2％の増加となった。

総世帯について消費支出の推移をみると，平成13年（－2.0％），14年（－0.1％），15年（－1.0％）と３年連続して実質減少となったが，16年（0.5％）は実質増加となった。平成17年（－0.1％）は再び実質減少となり，18年も食料などの支出が減少したことなどから，実質3.5％の減少となった。平成19年は交際費などの「その他の消費支出」，教養娯楽，交通･通信などの支出が増加したことから，実質1.2％の増加となった。

次に平成19年の動きを四半期別にみると，１～３月期は，暖冬の影響で光熱・水道の支出が減少したものの，交際費，交通・通信，テレビゲームやパーソナルコンピュータなどの教養娯楽の支出が増加したことなどから，前年同期に比べ実質1.0％の増加となった。４～６月期は，教養娯楽，教育などの支出が増加したことから，実質0.7％の増加となった。７～９月期は，例年７月始めから行われる夏のバーゲンセールが６月末から前倒しして実施されたこと，また，記録的な残暑による影響で秋物衣料の販売が不振だったことから，被服及び履物の支出が減少したものの，引き続き教養娯楽の支出が増加したことなどから実質1.5％の増加となった。10～12月期は，交際費などの「その他の消費支出」，交通・通信，教養娯楽などの支出が増加したことから，実質1.2％の増加となった（図１）。

図１　消費支出の四半期別対前年同期実質増減率の推移（総世帯）



（注）Ⅰは１～３月期，Ⅱは４～６月期，Ⅲは７～９月期，Ⅳは10～12月期を表す。

長梅雨，猛暑及び記録的な残暑の影響

表　長梅雨，猛暑及び記録的な残暑により影響を受けた主な品目の実質増減率（二人以上の世帯）　―平成19年―

（%）

品　　目	７月	８月	９月	７～９月期
食料				
アイスクリーム・シャーベット	−6.4	8.0	20.3	5.9
飲料	−1.8	5.7	7.7	3.8
ビール	−0.9	13.6	24.5	10.4
光熱・水道				
ガス代	−0.3	−4.0	−2.8	−2.3
灯油	−19.3	−29.1	−28.7	−25.2
家具・家事用品				
エアコンディショナ	−28.6	45.0	61.3	−6.3
タオル	−7.1	56.2	24.1	−23.3
教養娯楽				
スポーツ用品(注)１	−2.5	15.2	−5.9	1.1
その他の消費支出				
化粧クリーム(注)２	−8.7	19.2	−8.2	0.6

(注)　１．スポーツ用品は水着を含む。
　　２．化粧クリームは日焼け止めクリームを含む。

長梅雨，猛暑及び記録的な残暑が支出の増減に影響を与えたとみられる主な品目についてみると，アイスクリーム・シャーベット，エアコンディショナなどの品目は，７月は前年に比べ実質減少となったものの，８月及び９月は実質増加となり，７～９月期でみても実質増加となった。また，スポーツ用品及び化粧クリームは，８月はそれぞれ15.2％，19.2％の大幅な実質増加となった。

一方，ガス代及び灯油は，７月から９月までの各月で実質減少となった。特に灯油は７～９月期でみると，25.2％の大幅な実質減少となった。

⑵　交際費などの「その他の消費支出」，教養娯楽などが実質増加

総世帯の消費支出を費目別にみると，交際費などの「その他の消費支出」，教養娯楽などが増加に大きく寄与している。また，費目別の内訳をみると，次のような特徴がみられる。

ア　**食料**は59,961円で，名目0.8％の増加，実質0.5％の増加となった。魚介類，調理食品などが実質減少となったものの，飲料，穀類，酒類などが実質増加となったため，全体として実質増加となった。

イ　**住居**は19,287円で，名目，実質共に1.2％の減少となった。設備修繕・維持が実質増加となったものの，持家率（71.5％）が前年に比べ2.1ポイント上昇したことから家賃地代が実質減少となったため，全体として実質減少となった。

ウ　**光熱・水道**は18,521円で，名目2.0％の減少，実質2.8％の減少となった。上下水道料が実質増加となったものの，灯油などの「他の光熱」，電気代及びガス代が実質減少となったため，全体として実質減少となった。

エ　**家具・家事用品**は8,308円で，名目2.1％の増加，実質3.8％の増加となった。家事サービスが実質減少となったものの，エアコンディショナなどの家庭用耐久財，室内装備・装飾品などが実質増加となったため，全体として実質増加となった。

オ　**被服及び履物**は11,385円で，名目0.2％の減少，実質0.8％の減少となった。履物類，被服関連サービスなどが実質増加となったものの，和服のほか，洋服，シャツ・セーター類及び下着類が実質減少となったため，全体として実質減少となった。

カ　**保健医療**は11,040円で，名目2.3％の増加，実質2.0％の増加となった。保健医療サービス，保健医療用品・器具などが実質増加となった。

キ　**交通・通信**は33,526円で，名目1.6％の増加，実質1.5％の増加となった。自動車等関係費が実質減少となったものの，移動電話通信料などの通信及び交通が実質増加となったため，全体として実質増加となった。

ク　**教育**は9,162円で，名目0.7％の増加，実質で前年と同水準となった。

ケ　**教養娯楽**は28,371円で，名目3.6％の増加，実質5.0％の増加となった。パーソナルコンピュータなどの教養娯楽用耐久財，インターネット接続料などの教養娯楽サービス，テレビゲームなどの教養娯楽用品などが実質増加となった。

コ　**その他の消費支出**は61,967円で，名目2.7％の増加，実質2.6％の増加となった。交際費及び諸雑費が実質増加となった。

Ⅱ　最近の家計消費の動向

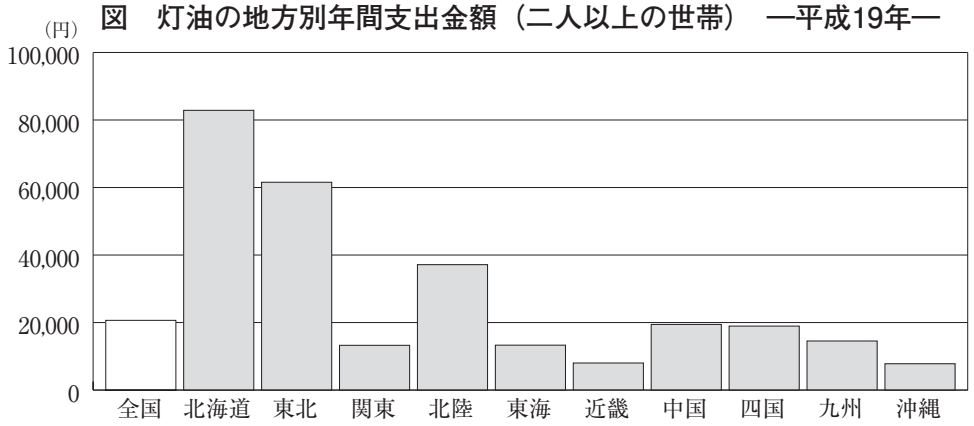
〈原油関連品目の動き〉

(1)　灯油

灯油の地方別年間支出金額

灯油の平成19年の年間支出金額について地方別にみると，北海道が最も多く，次いで東北，北陸などとなっており，沖縄が最も少なくなっている。全国平均の支出金額と比べると，北海道は4.0倍，東北は3.0倍，北陸は1.8倍となっている。

図　灯油の地方別年間支出金額（二人以上の世帯）　―平成19年―



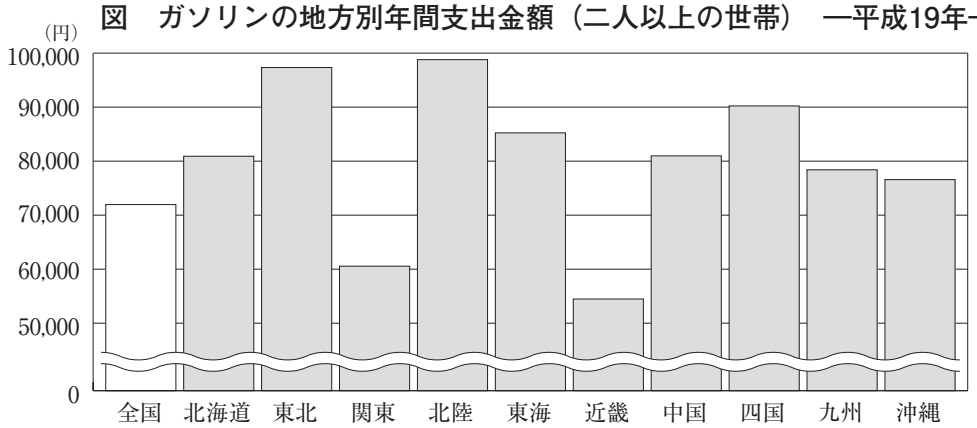
	全国	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
年間支出金額（円）	20,652	82,864	61,558	13,258	37,146	13,304	8,017	19,443	18,952	14,537	7,793
全国平均に対する倍率	1.0	4.0	3.0	0.6	1.8	0.6	0.4	0.9	0.9	0.7	0.4

(2)　ガソリン

ガソリンの地方別年間支出金額

ガソリンの平成19年の年間支出金額について地方別にみると，北陸が最も多く，次いで東北，四国などとなっており，近畿が最も少なくなっている。全国平均の支出金額と比べると，北陸及び東北は共に1.4倍，四国は1.3倍となっている。

図　ガソリンの地方別年間支出金額（二人以上の世帯）　―平成19年―



	全国	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
年間支出金額（円）	71,988	80,928	97,491	60,571	98,973	85,342	54,575	80,957	90,227	78,638	76,728
全国平均に対する倍率	1.0	1.1	1.4	0.8	1.4	1.2	0.8	1.1	1.3	1.1	1.1